

# 西東京市子宮頸がん予防ワクチン接種説明書・注意事項編

接種する前に必ずお読みください。

## ○予防接種後に起こりえる症状

発生頻度	ワクチン:サーバリックス <sup>®</sup>	ワクチン:ガーダシル <sup>®</sup>
50%以上	疼痛・発赤・腫脹、疲労感	疼痛
10%～50%以上	掻痒、腹痛、筋痛・関節痛、頭痛など	腫脹、紅斑
1～10%未満	蕁麻疹、めまい、発熱など	掻痒・出血・不快感、頭痛、発熱
1%未満	注射部位の知覚異常、感覚鈍麻、全身の脱力	硬結、四肢痛、筋骨格硬直、腹痛・下痢
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	疲労・倦怠感、失神、筋痛・関節痛、嘔吐など

※ 重い副反応として、まれに、アナフィラキシー様症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難など)、ギラン・バレー症候群(手足の力が入りにくいなどの症状)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)(頭痛、嘔吐、意識の低下などの症状)が現れることがあります。

※ また最近、因果関係は不明ですが、接種後からだの痛みやしびれが出たり、歩行困難を生じたりしたという報告もあります。

## ○次の方は接種を受けないでください

- ① 明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 子宮頸がん予防ワクチンの成分(詳しくは医師にお尋ねください)によって過敏症(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む)をおこしたことがある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方

## ○次の方は接種前に医師にご相談ください

- ① 血小板が少ない方や出血しやすい方
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ③ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方
- ④ 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ⑤ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑥ 妊婦あるいは妊娠している可能性のある方(3回の接種期間中を含む)
- ⑦ 現在、授乳中の方

## ○接種後の一般的注意事項

- ① 接種後、アレルギー症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難)が起こることがあるので、すぐに帰宅せず30分間は安静にしてください。また、接種後1週間は副反応の発生に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは医師にご相談ください。
- ② 接種後は接種部位を清潔に保ち、揉んだりこすらないようにしましょう。接種当日の入浴は問題ありません。接種後丸1日は、過度な運動を控えましょう。

## ○予防接種による健康被害救済制度

定期予防接種によって健康被害が発生した場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときには、予防接種法に基づく救済を受けることができます。気になる症状が発生した時には、医師や市役所健康課にお問合せください。